神奈川県内出土の弥生時代金属器（1）

－鉄器集成－

弥生時代研究プロジェクトチーム

はじめに

弥生時代は水田稲作が始まった時代であるとともに、鉄器、青銅器など金属器使用が始まった時代でもある。東日本においては弥生時代中期後半に鉄器の使用が始まり、次いで青銅器が導入されるようになる。神奈川県内においても同様であるが、出土量は決して多くはなく、その分、詳細が明らかとは言い難い。

そこで弥生時代研究プロジェクトチームでは、神奈川県内出土の弥生時代金属器を集成し、改めて消長・動向を把握することとした。手始めに、今回は鉄器集成を行い、データの蓄積を図ることとした。

集成にあたって、器種の消長と画期をより明らかにする上では弥生時代に限定せず古墳時代前期までの動向を押さえる必要があることから、集成範囲を弥生時代から古墳時代前期（前半）までとしたが、今回の集成作業では古墳出土資料は対象に含めていない。資料の所属時期は、基本的に各報告書報文における記述に基づいているが、一部表記方法を変えて記載したものもある。また遺物名についても、報告書掲載の名称を変更したものが若干ある。集成結果は第１表にまとめ、報告されている図を第１～４図に縮尺１／３に統一して掲載した。第１表の「図番号」は第１～４図の遺物に付けた通し番号に対応し、「文献No.」は文末の文献一覧に付けた番号に対応している。集成は池田　治、桜井真貴、新開基史、戸羽康一、渡辺　外が行い、弥生時代鉄器研究史、弥生鉄器の概略および神奈川県内出土鉄器の概要について戸羽が執筆した。編集は池田が行った。（池田）

１．弥生時代鉄器研究史と関東地方における鉄器研究史

弥生時代を特徴づける事柄として稲作とともに、金属器の使用が挙げられる。特に鉄器は実用具として導入され、利器は石から鉄へと材質転換していった。鉄器が研究されはじめた頃には、利器類の石器から鉄器への転換による生産力向上とそれに伴う社会発展を鑑みた議論が展開された。近年では、鉄器の形態分類や分布が少なからずとらえられるようになり、地域ごとの議論がされるようになってきている。

利器類の完全な鉄器化は弥生時代中期後半以降、全国的に大陸系磨製石器類が減少することもあり、日本列島において斉一的に起こったと考えられてきた。しかし、弥生時代後期段階において、列島各地で石器が残ることが明らかになってきている（村上1998）。さらに、鉄器の普及は地域ごとに段階を追って、徐々に鉄器化されていくことが指摘されている。

日本列島における弥生時代鉄器の研究は九州から始まっており、岡崎敬氏が長崎県壱岐原ノ辻遺跡、カラカミ遺跡から出土した鉄器について論じ、先鞭をつけた（岡崎1956）。

その後、資料増加に伴い瀬戸内海沿岸部～近畿地方における研究、日本海沿岸地域が対象となって研究されてきた。遺物量の豊富さから、主として西日本において研究がなされてきた。

関東地方における鉄器について最初に言及したのは川越哲志氏で、全国から出土した板状鉄斧について論

じた（川越1974）。しかし、関東地方における鉄器はしばらくの間、議論の対象として取り上げられることはあまりなかった。1990年代以降、資料数が増加したこともあり、関東地方出土の弥生時代鉄器についても研究対象とされるようになってきた。以下、代表的な研究を概観する。

第31回埋蔵文化財研究集会では平野晋一氏が関東地方と中部山岳地方（長野県）における鉄器を集成し、各地域時期別に石器の終焉と鉄器の普及を示した。地域性など詳細な議論は行われていないものの、関東地方における鉄器研究の先駆けである。（平野1992）。

川越哲志氏は『弥生時代の鉄器文化』において、日本列島における各種弥生時代鉄器を集成し、個別に行われてきた鉄器形態の研究をまとめ、器種ごとに検討したうえで総合的・体系的な研究を行った（川越1993）。これによって、弥生時代鉄器の形態的研究については、一定の完成に至ったといえる。農工具鉄器化の段階を設定し、西から東へと地域ごとに時期差を持ちながら各段階で移行するとしており、北部九州と関東地方には大幅な時期差があることが示された。

安藤広道氏は石器から鉄器への移行期である中期後半段階において、大陸系磨製石器とそれに関連したもの以外の石器が少ないという石器組成の不自然な偏りに着目した。そして、その背景には鉄器が石器組成の偏りを補う形で存在していたと考え、移行期において従来の石器製作・流通のシステムが依然として主流を占めていたと指摘した（安藤1996）。

さらに、関東地方における鉄鏃の厚さが非常に薄いことや鉄釧の製作技法から、鉄の絶対量が少ないため、鉄を効率よく使用するための製作技術が存在したと評価した。その背景には、当時の鉄に対しての観念が東西で異なっていた可能性を示している（安藤2000）。

大村　直氏は第4回鉄器文化研究会において、南関東地方のおける集落出土の鉄器を集成し、弥生時代中期後半から古墳時代前期にかけて、各種鉄器について時期ごとの変化を追っている。集落における鉄製農工具の組成の変化から、4つの段階があることを示した。また、南関東地方の鉄器生産についても鍛冶遺構の例を挙げつつ、言及している（大村1997）。東日本は近畿以西とは異なる地域性を認めうる可能性を示唆し、より限定した地域性の抽出をする必要性を唱えている。

久世辰男氏は南関東地方における弥生鉄器の器種組成を中期段階と後期段階で比較検討している。さらに各種鉄器の形態や鍛冶遺構など現在の状況を整理し、今後の展望を示している（久世2002）。　　（戸羽）

2．弥生時代鉄器の概要

弥生時代における鉄器の代表的なものを列挙する。

農工具：板状鉄斧、袋状鉄斧（加工用、伐採用）、刀子、鉈、鉄鎌、摘鎌、鋤・鍬先

武　器：鉄剣、鉄刀、鉄鏃、（鉄戈、鉄矛、鉄槍）

漁労具：釣針、銛

装身具：鉄釧

日本最古の鉄器は福岡県曲り田遺跡出土の板状鉄器があり、時期は弥生時代前期初頭で、舶載品と考えられている。また、鉄器導入初期段階においては、鋳造鉄器の破片やそれを再加工した製品が使用されていたことが指摘されている（村上1998）。ただし、放射性炭素年代測定法（ＡＭＳ法）による結果を受け、弥生時代の開始年代が遡る可能性が示されている。これにより弥生時代前期末葉～中期初頭の鉄器は年代が再考され、最古の鉄器は中期初頭に位置づけられている。

弥生時代中期後半になると全国的に鉄器の出土例が見られるようになる。斧や鉇などを主体とした農工具を中心に鉄器化が進んでいった。弥生時代後期以降は爆発的に鉄器出土数量が増加する。器種も豊富になり、利器だけでなく、鉄剣、鉄刀といったなどが墳墓に副葬されるようになる。

鉄器の出土数をみてみると、北部九州を頂点として、東に行くほど少なくなるという西高東低を示す（寺沢2004)。 (戸羽)

3．神奈川県内出土の弥生時代鉄器概要

神奈川県内における鉄器の出現期は弥生時代中期後半（宮ノ台期）である。この段階で出土している鉄器は、板状鉄斧を主体とする鑿、鉇、刀子といった農工具である。赤坂遺跡、関耕地遺跡、権田原遺跡、砂田台遺跡、千年伊勢山台遺跡、梶ヶ谷神明社上遺跡などで出土している。特に、砂田台遺跡では鉄剣を切断、再加工したとみられる板状鉄斧が発見されており、注目される。この資料から、鉄器に対する姿勢、つまり生産力を高めることを重視していたという指摘がされている（川越1993)。武器である鉄鏃も出土例はあるが、単発的である。

弥生時代後期から古墳時代初頭において、農工具には鉄鎌が器種として追加される。また、釣針や銛といった漁労具も出現する。特徴的なのは、鉄剣や鉄釧が出現し、それらが墳墓に副葬されはじめる点である。王子ノ台遺跡、高原北遺跡、山王山遺跡では鉄剣が、大原遺跡、受地だいやま遺跡では鉄釧が出土している。Ｅ5遺跡では鉄剣と鉄釧が共伴する例もある。弥生時代中期後半段階では生産力重視であったことを踏まえれば、鉄器が生産力を高めるものとしてだけでなく、武器や装飾品にまで使用されるようになったことを示している。

古墳時代前期になると、千代吉添遺跡第Ｉ地点、千代南原遺跡第Ⅳ地点からは羽口、鉄滓といった鍛冶関連遺物が発見されており、注目される。現在のところ神奈川県内から弥生時代の鍛冶遺構は発見されておらず、上記の遺跡からも鍛冶遺構そのものは検出されなかった。しかし、鍛冶を行っていたことを示す資料としては県内最古のものである。鉄器については、資料上の制約が大きく詳述は困難であるが、神戸・上宿遺跡から袋状鉄斧が出土しており、弥生時代中期後半から古墳時代初頭まで存在しなかった形態の鉄斧が見られるようになる。

以上概略を述べたが、神奈川県内における鉄器の動向をまとめると、全国的に鉄器が普及し始める弥生時代中期後半に神奈川県にも鉄器が出現し、まず斧を主体とした農工具について鉄器化が始まる。弥生時代後期段階になると、農工具については鉄鎌など器種が増加する。そして、鉄剣、鉄釧、鉄鏃といった武器や装飾品についても鉄が用いられ、墳墓に副葬されるようになる。古墳時代前期になると明確な鍛冶遺構は発見されていないものの、鍛冶を行っていた痕跡がみられるようになる。 (戸羽)

おわりに

今回は弥生時代から古墳時代前期の鉄器集成を行い、119点を集成した。決して多い数量ではなく器種の消長は単純なようであるが、用途不明鉄器や棒状鉄製品など残欠品の原形・用途を考えると、鉄鏃などがもっと多く存在していたのではないかと考えられる。金属製品の利用における地域的特色などの分析は今後の課題である。次回青銅製品の集成とともに、併せて検討を行いたい。 (池田)

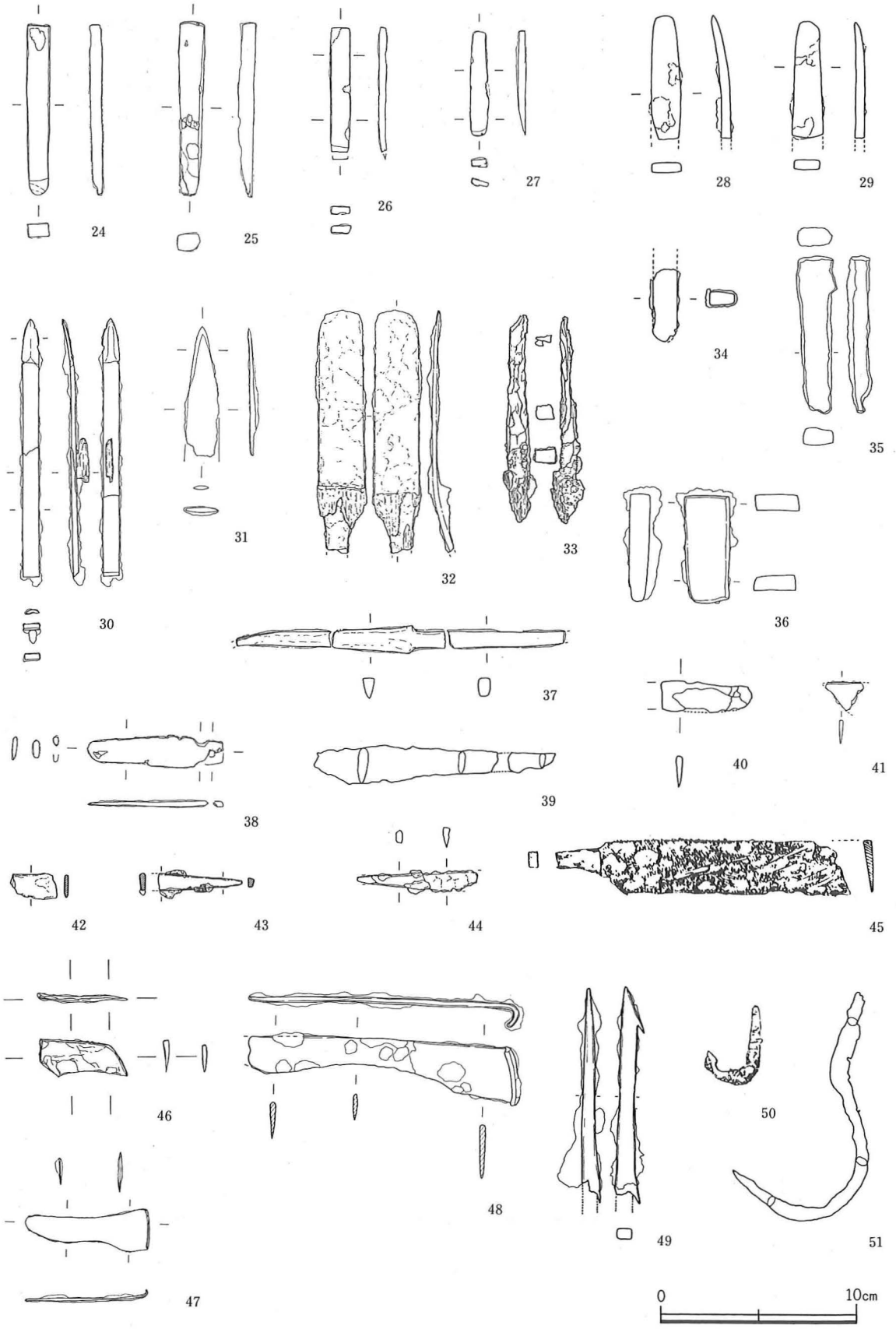
第１表　神奈川県内出土　弥生時代～古墳時代前期　鉄器集成

市町村	遺跡名	遺構名	遺物名	数量	時期	図番号	備考	文献No.
横浜市	関耕地遺跡	７号住居址	板状鉄斧	3	弥生中期後半	1～3		1
	桂台北遺跡	Ｙ－１号住居址	板状鉄斧	2	弥生中期後半	4、5		2
	権田原遺跡	ＣＹ２号住居址	板状鉄斧	2	弥生中期後半	6、7		3
	八幡山遺跡	住居址	板状鉄斧	1	弥生後期末	8		4
	横浜市道高速2号線No. ６遺跡	Ｂ地区　15号住居址	棒状鉄製品（鉈？）	1	弥生後期前半	104		5
	三殿台遺跡	205Ａ号住居炉址内	鉄片	1	弥生後期前半	－	記述のみ	6
	大原遺跡	３号方形周溝墓　主体部	鉄釧	1	弥生後期	－	記述のみ	7
	山王山遺跡	５号方形周溝墓	鉄剣	1	弥生後期	58		8
		46号住居址	茎？	1	弥生後期中葉	102		
	そとごう遺跡	21Ｂ号住居址	鉄鏃	1	弥生後期後半	60		9
	四枚畑遺跡	Ｙ－５号住居址	鉄鏃	1	弥生後期前半	62		10
			茎状鉄片	1		105		
	受地だいやま遺跡	１号方形周溝墓　埋葬部2	鉄釧	1	弥生後期前半	78		11
	観福寺北遺跡	13号住居址	鉄鏃	1	弥生後期前半	68		12
	赤田地区遺跡群No. 10遺跡	ＹＴ３号住居址	角棒状鉄製品	1	弥生後期前半	103		13
	赤田地区遺跡群No. 17遺跡	ＹＴ６号住居址	鉄鏃	1	弥生後期中葉	61		14
	Ｅ５遺跡	１号方形周溝墓　主体部	鉄剣	1	弥生後期前半	55		15
			鉄釧	1		77		
	折本西原遺跡	Ｙ48号住居址	棒状鉄製品（鉄鏃？）	1	弥生中期後半	99		16
	稲ヶ原遺跡	Ａ－７号住居址	刀子？	1	古墳前期	42		17
		Ａ－８号住居址	刀子	1	古墳前期	43		
	小黒谷遺跡	Ｉ地区１号住居址	不明鉄製品	1	弥生後期？	91		18
	寺下遺跡	ＨＤ－３	鉄剣	1	古墳前期	59		19
川崎市	梶ヶ谷神明社上遺跡	第１次調査　竪穴住居跡	板状鉄斧	1	弥生中期後半	9		20
		第２次調査　竪穴住居跡	板状鉄斧	1	弥生中期後半	10		21
			鑿	2		28、29		
	千年伊勢山台遺跡	３号住居址	鉄鏃	1	弥生中期後半	71		22
			鑿状鉄製品	1		34		
横須賀市	鴨居上ノ台遺跡	８号住居址	剣状鉄製品	1	古墳前期	57		23
		20号住居址	鉄鏃	1	弥生後期前半	65		
			刀子状鉄製品	1		39		
			鈎状鉄製品	1		51		
		38Ｂ号住居址	鉄鏃	1	古墳前期	72		
	溝尾遺跡	住居址	鉄剣	1	弥生後期前半	－	記述のみ	50

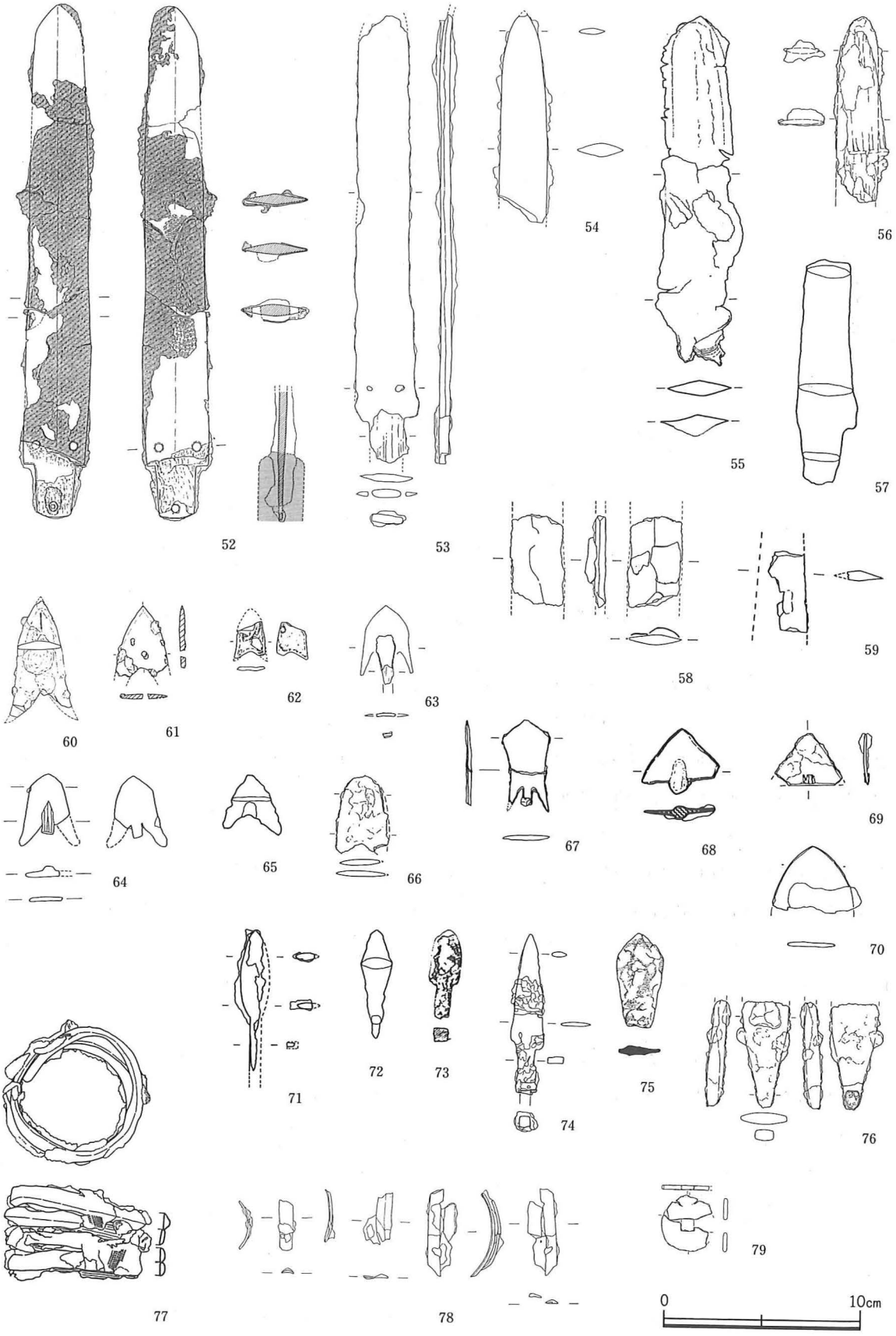
市町村	遺跡名	遺構名	遺物名	数量	時期	図番号	備考	文献No.
横須賀市	三足谷遺跡	12号住居址	鉄鎌	1	古墳前期	48		24
	米の台遺跡	ＳＩ03号住居址	棒状鉄製品	1	弥生中期後半	98		25
	高原北遺跡	１号方形周溝墓　第１主体部	鉄剣	1	弥生後期～古墳前期	56		26
	高原遺跡	Ｙ89号住居	鉄鏃	1	弥生後期～古墳前期	66		26
		Ｙ203号住居址	鉄鏃	1	弥生後期～古墳前期	76		
	矢ノ津坂遺跡	Ｙ15号住居址	楔？	1	弥生中期後半	35		27
平塚市	王子ノ台遺跡	５号方形周溝墓　主体部	鉄剣	1	弥生後期後半	52		28
	真田・北金目遺跡群	２区　SI007	板状鉄器	1	古墳前期	36		29
		８Ｄ区　SDH2008　主体部	鉄剣	2	弥生後期	53、54		30
		29Ｂ区　遺構外	棒状鉄製品（鉄鏃？）	1	弥生中期～古墳前期	93		31
		30Ａ・Ｄ区　SI009	鉄片（刀子？）	1	古墳前期	41		31
	原口遺跡	ＹＨ12号住居址	棒状鉄製品	1	弥生後期後半	97		32
鎌倉市	台山藤源治遺跡	14号住居址	刀子	1	弥生後期後半	37		33
	水道山戸ヶ崎遺跡	４号住居址	鉄製品（鉄鏃？）	1	弥生後期	―	記述のみ	34
		８号住居址	鉄鎌？	1	弥生後期？	―	記述のみ	
藤沢市	稲荷台地遺跡群　Ｆ地点	35号住居址	方孔銭状鉄製品	1	弥生後期後半	79		35
	若尾山遺跡　大道小学校内地点	８号住居址	鉄鏃	1	弥生後期後半	69		36
			刀子	1		44		
	慶應義塾湘南藤沢キャンパス内遺跡	第35号住居址	鉄器片	1	弥生後期末～古墳初頭	100		37
		第42号住居址	棒状鉄製品	1	弥生後期末～古墳初頭	101		
小田原市	諏訪の前遺跡	包含層	鉄鏃？	1	弥生後期後半	75		38
	千代光海端遺跡	６号住居址	棒状鉄製品	1	弥生後期後半	95		39
	千代吉添遺跡第Ｉ地点	鍛冶関連遺物集中	鉄滓	6	古墳前期	―	羽口１点出土	40
			鉄片	2		―		
			棒状鉄製品	1		96		
	千代南原遺跡第Ⅳ地点	１号土坑	鉄滓	2	古墳前期	―	羽口14点出土	41
	下曽我遺跡	範囲確認調査中	袋状鉄斧	1	古墳前期？	23		42
茅ヶ崎市	下寺尾西方Ａ遺跡	Ｙ12号竪穴住居址	板状鉄斧	1	弥生中期後半	13		43
		Ｙ13号竪穴住居址	板状鉄斧	1	弥生中期後半	14		
逗子市	沼間台遺跡	―	板状鉄斧	2	弥生後期	―	記述のみ	47
	菅ヶ谷台地遺跡	32号住居址	鉄鏃	1	古墳前期	64		44
	池子遺跡群　No.２地点	第２号竪穴住居址	鉄鏃	1	古墳前期	67		45
			棒状鉄製品（鉄鏃茎？）	1		92		
三浦市	赤坂遺跡	トレンチ	板状鉄斧	1	弥生中期後半	11		46
		―	板状鉄斧	2	弥生後期後半	―	記述のみ	47

市町村	遺跡名	遺構名	遺物名	数量	時期	図番号	備考	文献No.
三浦市	油壷遺跡	１号住居址	板状鉄斧	1	古墳前期	12		47
		第５号住居址	ヤス	1	古墳前期	49		
	間口洞穴	下層下部（混貝土層）	鉄鏃	1	弥生後期後半	73		48
	毘沙門Ｂ洞穴	第３文化層	釣針	1	弥生後期中葉	50		48
	毘沙門Ｃ洞穴	下層	刀子	1	弥生後期前半	45		48
	雨崎洞穴	―	鉄斧	1	古墳前期	―	記述のみ	47
秦野市	砂田台遺跡	７号住居址	鉇	1	弥生中期後半	31		49
			鑿	4		24～27		
			板状鉄斧	4		17～20		
			刀子	1		38		
			鉄剣加工斧	1		21		
		11号住居址	鉄鎌	1	古墳前期	47		
		70号住居址	鉄鏃	1	古墳前期	63		
		109号住居址	鉇	1	古墳前期	30		50
		146号住居址	板状鉄斧	1	弥生中期後半	22		
厚木市	子ノ神遺跡	134号址	鉇？	1	弥生後期	33		51
伊勢原市	成瀬第二地区遺跡群下粕屋Ｃ地区第２地点	106号住居址	鉄鏃	1	古墳前期	74		52
	三ノ宮・下谷戸遺跡（No. 14）	２号住居址	鉄片	1	弥生後期末～古墳初頭	82		53
			棒状鉄製品	1		94		
	上粕屋・三本松遺跡（No. ７）	６号住居址	不明鉄製品	1	弥生後期末～古墳初頭	88		54
		８号住居址	刀子片	1	弥生後期末～古墳初頭	40		54
	神戸・上宿遺跡（No. 15）	H61号住居址	袋状鉄斧	1	古墳前期	―	（図省略）	55
	上ノ在家遺跡	SI－10	鉄器片	1	弥生後期～古墳初頭	89		56
		SI－64	鉄鏃	1	弥生後期～古墳初頭	70		56
		SI－68	鉄器片	1	弥生後期～古墳初頭	90		56
綾瀬市	神崎遺跡	土器捨て場	鉄鎌	1	弥生後期前半	46		57
寒川町	倉見才戸遺跡	２号住居址	三角形状鉄片	2	弥生後期後半～古墳初頭	80、81		58
			棒状鉄器	3		83～85		
			不明鉄器	2		86、87		
		Ｙ－６号住居址	板状鉄斧	2	弥生後期後半	15、16		59
			鉇?	1		32		
	倉見川端遺跡	３号住居跡	鉇	1	弥生後期後半～古墳初頭	―	記述のみ	60

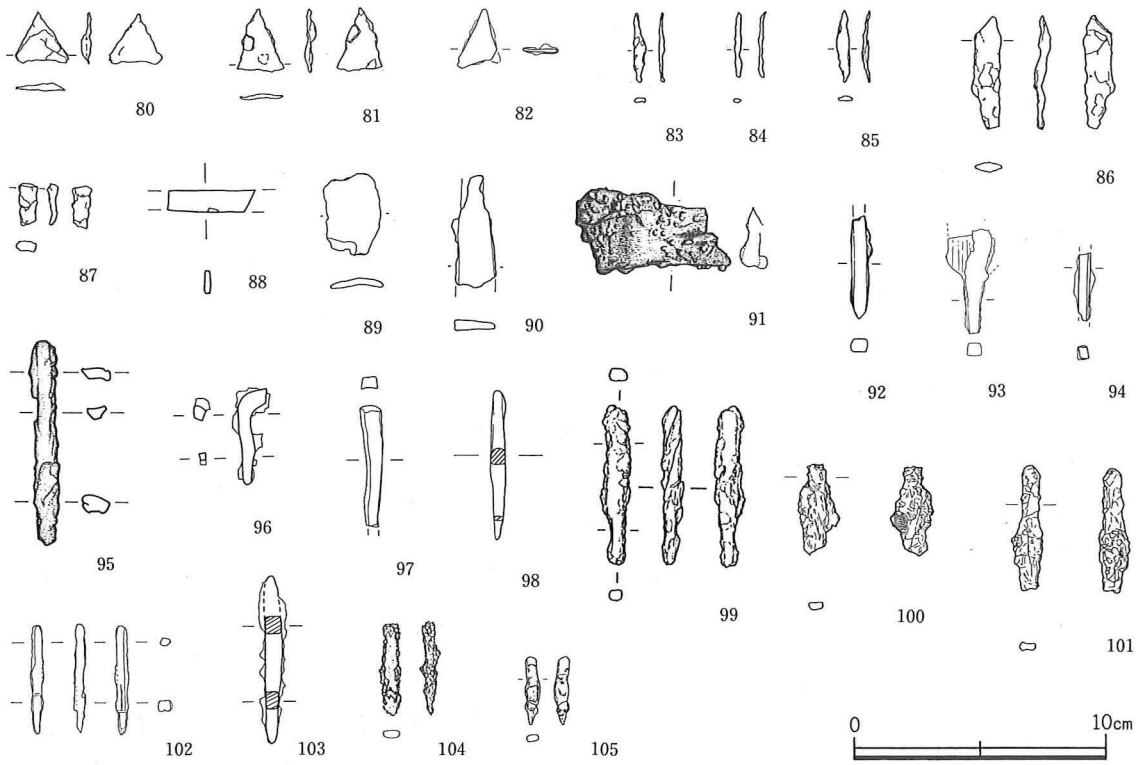
第１図　神奈川県内出土の弥生時代～古墳時代前期鉄器集成（１）－農工具①



第２図　神奈川県内出土の弥生時代～古墳時代前期鉄器集成（２）－農工具②・漁労具



第３図　神奈川県内出土の弥生時代～古墳時代前期鉄器集成（３）－武器・装身具・その他



第４図　神奈川県内出土の弥生時代～古墳時代前期鉄器集成（４）－用途不明品・残欠品

引用参考文献（本文執筆にあたっての下記以外の参考文献は記載省略した）

東　潮　1986「鉄・銅の武器―A鉄剣、B鉄刀、C鉄戈、D鉄矛」『弥生時代の研究』９　弥生人の世界　雄山閣

安藤広道　1996「南関東地方石器～鉄器移行期に関する一考察」『横浜市歴史博物館紀要Vol. 2　横浜市歴史博物館

安藤広道　2000「地域をこえた様相　関東」『考古学リーダー１　弥生時代のヒトの移動～相模湾から考える～』六一書房

岩本　崇　2002「東日本における弥生時代鉄釧の製作背景」『古代文化』Vol.54　(財)古代学協会

大村　直　1997「南関東地方における鉄器の普及過程」『第４回　鉄器文化研究集会　東日本における鉄器文化の受容と展開』発表要旨集　鉄器文化研究会

岡崎　敬　1956「日本における初期鉄製品の問題―壱岐ハルノツジ、カラカミ遺跡発見資料を中心として―」『考古学雑誌』42－１　日本考古学会

川越哲志　1974「弥生時代鉄製工具の研究（Ⅰ）―板状鉄斧について―」『広島大学文学部紀要』33　広島大学文学部

川越哲志　1993『弥生時代の鉄器文化』　雄山閣

久世辰男　2002「弥生時代の南関東の鉄器組成とその意義」『利根川』22　利根川同人

寺沢　薫　2004「弥生時代および古墳時代初期首長墓副葬品一覧」『考古資料大観』第10巻　弥生・古墳時代　遺跡・遺構　小学館

豊島直博　2004「弥生時代における鉄剣の流通と把の地域性」『考古学雑誌』88－２　日本考古学会

平野晋一　1992「大陸系磨製石器類の終焉と鉄製品の普及―関東地方・中部山岳地方―」『第31回　埋蔵文化財研究集会　弥生時代の石器―その始まりと終わり―』第6分冊　埋蔵文化財研究会関西世話人会

村上恭通　1998『倭人と鉄の考古学』　青木書店

報告書等文献（番号は第１表の文献No.に対応）

1．田村良照ほか　1997 『関耕地遺跡発掘調査報告書』 観福寺北遺跡発掘調査団

2．戸田哲也・坪田弘子　2004 『桂台北遺跡発掘調査報告書』 玉川文化財研究所

3．鈴木重信　1989 「権田原遺跡の調査《４》」『港北のむかし』90　港北ニュータウン埋蔵文化財調査団

4．武井則道　2002 『八幡山遺跡』 港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告31 （財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター

5．岡田威夫・藤井和夫ほか　1982 『横浜市道高速２号線埋蔵文化財発掘調査報告書』 横浜市道高速２号線埋蔵文化財発掘調査団

6．和島誠一編　1965 『三殿台』 横浜市教育委員会

7．坂本　彰・鈴木重信　1982 「横浜市大原遺跡（新吉田第７）遺跡の調査」『第６回　神奈川県遺跡調査・研究発表会発表要旨』 第６回神奈川県遺跡調査・研究発表会準備委員会

8．河野喜映・宍戸信悟　1985 『山王山遺跡』 神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告８

9．鈴木敏弘　1972 『そとごう遺跡調査概報』 そとごう遺跡調査会

10．小宮恒雄・山田光洋　2003 『四枚畑遺跡』 港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告32 （財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター

11．伊藤正義ほか　1986 『奈良地区遺跡群Ⅰ発掘調査報告書（上巻）』 奈良地区遺跡調査団

12．平子順一・鹿島保宏　1989 『観福寺北遺跡・新羽貝塚発掘調査報告』 横浜市埋蔵文化財調査委員会

13．大川　清・渡辺　務　1994 『赤田地区遺跡群　集落編Ⅰ』 日本窯業史研究所報告第45冊

14．大川　清・渡辺　務　1998 『赤田地区遺跡群　集落編Ⅱ』 日本窯業史研究所報告第48冊

15．武井則道編　2001 『E5遺跡』 （財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター

16．石井寛ほか　1980 『折本西原遺跡』 横浜市埋蔵文化財調査委員会

17．平子順一・橋本昌幸　1992 『稲ヶ原遺跡Ａ地点発掘調査報告』 （財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター

18．中央大学考古学研究会　1973 『小黒谷遺跡発掘調査概報』 中央大学考古学研究会

19．渡辺　務　2003 『寺下遺跡』 日本窯業史研究所報告第60冊

20．持田春吉ほか　1970 「川崎市梶ヶ谷神明社上遺跡発掘調査報告」『高津郷土史料集』第７篇　川崎市立高津図書館

21．持田春吉ほか　1994 『梶ヶ谷神明社上遺跡（第２次）発掘調査報告書』 梶ヶ谷神明社上遺跡発掘調査団

22．竹石健二・野中和夫　1983 「千年伊勢山台遺跡発掘調査報告書」『川崎市文化財調査集録』第19集　川崎市教育委員会

23．岡本　勇・塚田明治ほか　1981 『鳴居上ノ台遺跡』 横須賀市文化財調査報告書第８集

24．玉口時雄・大坪宣雄ほか　1997 『横須賀市吉井・池田地区遺跡群Ⅰ』 横須賀市吉井・池田地区埋蔵文化財発掘調査団

25．平岡和夫・松田正基　1998 『米の台遺跡』 山武考古学研究所

26．大坪宣雄・釼持輝久ほか　2003 『佐島の丘遺跡群発掘調査報告書』 佐島の丘埋蔵文化財発掘調査団

27．吉田政行・新開基史　2006 『高尾横穴墓群・矢ノ津坂遺跡』 かながわ考古学財団調査報告198

28．宮原俊一編　2000 『王子ノ台遺跡　第Ⅲ巻　弥生・古墳時代編』 東海大学校地内遺跡調査団

29．若林勝司・川端清倫ほか　1999 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書１』 平塚市真田・北金目遺跡調査会

30．若林勝司・中島由紀子ほか　2003 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書３』 平塚市真田・北金目遺跡調査会

31．若林勝司・川端清倫ほか　2008 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書６』 平塚市真田・北金目遺跡調査会

32．長谷川厚・加藤久美　2001 『原口遺跡Ⅱ』 かながわ考古学財団調査報告104

33. 手塚直樹・及川良彦ほか　1985 『台山藤源治遺跡』 台山藤源治遺跡発掘調査団
34. 鎌倉考古学研究所　1980 「山崎・水道山戸ヶ崎遺跡」『鎌倉考古』 3
35. 戸田哲也・秋山重美ほか　1996 『稲荷台地遺跡群発掘調査報告書（C・D地点　F地点　S地点）』 稲荷台地遺跡群発掘調査団
36. 継　実ほか　1998 『若尾山（藤沢市No.36）遺跡―藤沢市立大道小学校内地点―発掘調査報告書』 東国歴史考古学研究所
37. 岡本孝之・大野尚子　1992 『湘南藤沢キャンパス内遺跡　第4巻』 慶應義塾藤沢校地埋蔵文化財調査室
38. 杉山博久・湯川悦夫　1971 『小田原市諏訪の前遺跡』 平塚市神田大野遺跡発掘調査団
39. 杉山博久　1984 『西相模における古式土師器の研究（資料編Ⅰ）』 小田原考古学研究会
40. 島崎麻里・諏訪間順ほか　2006 『千代吉添遺跡第Ⅰ～Ⅳ地点』平成15年度小田原市緊急発掘調査報告書３
41. 諏訪間順・立花　実　1987 『千代南原遺跡第Ⅳ地点』 小田原市文化財調査報告書22集
42. 斎木秀雄・降矢順子ほか　2002 『下曽我遺跡　永塚下り畑遺跡Ⅳ地点』 鎌倉遺跡調査会
43. 村上吉正・井澤　純ほか　2003 『下寺尾西方Ａ遺跡』 かながわ考古学財団調査報告157
44. 小出義治　1989 『沼間三丁目遺跡群　沼間ポンプ場南台地遺跡　菅ヶ谷台地遺跡』 沼間三丁目遺跡調査団
45. 桝淵規彰・高村公之　1994 『池子遺跡群Ⅰ』 神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告27
46. 岡本　勇　1977 『三浦市赤坂遺跡』 赤坂遺跡発掘調査団
47. 須田英一・中村勉ほか　2003 『油壷遺跡』 三浦市埋蔵文化財調査報告書第11集
48. 赤星直忠　1953 「海蝕洞窟―三浦半島に於ける弥生式遺跡―」『神奈川県文化財調査報告　第20集』 神奈川県教育委員会
49. 宍戸信悟・上本進二　1989 『砂田台遺跡Ⅰ』 神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告20
50. 宍戸信悟・谷口　肇　1991 『砂田台遺跡Ⅱ』 神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告20
51. 望月幹夫ほか　1990 『子ノ神（Ⅲ）』 厚木市教育委員会
52. 河合英夫・諏訪間伸ほか　2001 『成瀬第二地区遺跡群下粕屋C地区第2・3地点　発掘調査報告書』 成瀬第二地区遺跡調査会・都市基盤整備公団
53. 宍戸信悟・宮坂淳一　2000 『三ノ宮・下谷戸遺跡（No.14）Ⅱ』 かながわ考古学財団調査報告76
54. 宍戸信悟・宮坂淳一　1998 『東富岡・杉戸遺跡（No.38）東富岡・北三間遺跡（No.4)上粕屋・川上遺跡（No.5・6）上粕屋・三本松遺跡（No.7）上粕屋・川上西遺跡（No.8)』 かながわ考古学財団調査報告34
55. 木村吉行・柏木善治　1999 『神戸・上宿遺跡（No.15)』 かながわ考古学財団調査報告57
56. 滝沢　亮・坂口滋皓ほか　1987 『比々多遺跡群』 比々多第一地区遺跡調査団
57. 小滝　勉ほか　1992 『神崎遺跡発掘調査報告書』 綾瀬市埋蔵文化財調査報告２　綾瀬市教育委員会
58. 小林秀満　1999 『倉見才戸遺跡発掘調査報告書　－第３次調査－』 倉見才戸発掘調査団
59. 中村哲也　2004 『倉見才戸遺跡第１次調査発掘調査報告書』 倉見才戸遺跡調査団
60. 池田　治　2007 「倉見川端遺跡」『年報14』（財）かながわ考古学財団